

小原頼之 （まはら ちかゆき） 歌人。安政七年二月一日丹波國生れ、明治四十一年十一月二十五日歿（八六〇―一九〇八）。幼名嘉一郎。號樂只軒、霞湖。小兒科醫、弘田長心（ひろた ながこ）師事。明治二十四年、創設せられた小兒科學會の重鎮。青兒上の要項を日記體に記し、大塚楠緒子が序文を寄せた「青兒親ごころ」（明治四十一年四月十日文陽堂書店）は廣く讀まれた。また杉浦重剛とは早くから親父、その癖好塾の塾友となり、重剛からは「樂只軒記」を贈られた。趣味が廣く、謡曲、華道にも堪能で、晩年いには佐木信綱に就き歌作、歌集「秋の上かぜ（風）」（昭和十五年十一月二十五日古今書院）を遺した。

妻榮子（本名ふい、舊姓有賀）も四賀光子が姪に當る關係から、夫歿後は太田水穂、光子の指導で本格的に作歌、「梅の下蔭」と題した歌集も夫の遺歌集に併載してゐる。

